

舞踊家伊藤道郎の思想 (1893～1961)

片岡 康子
細川江利子

【研究目的】

本研究は、伊藤の思想に焦点をあて彼の舞踊活動の根元を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

I. 主に伊藤の著作から彼の言葉を抽出し、それらを分類、彼の思想を考察した。

文献No.

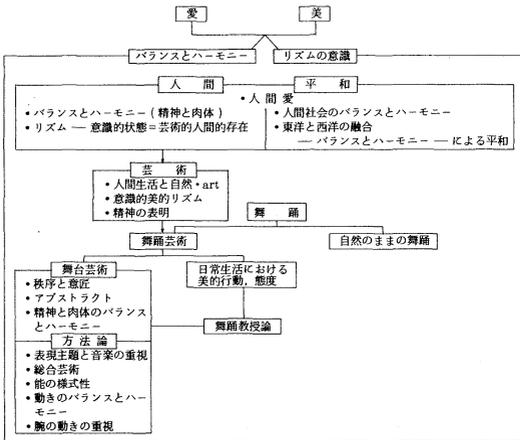
- ①「アメリカ」、羽田書店、昭15.6.
- ②「美しくなる教室」、柳室文館、昭31.11.
- ③雑誌「心」5巻6・7・10号、6巻9・10号、
“舞踊のお話”（柳室文館、昭和27、28.

- II. ④「MICHIO ITO」Helen Caldwell 註¹
UNIVERSITY OF CALIFORNIA PRESS
1977.
アメリカ、日本における公演批評文 註²

上記2つの資料から

- (1) 作品に関する文章から言葉の最小単位を抽出
- (2) それらを、①身体・運動、②構成、③テーマ・主題・ストーリー、④音楽、⑤ステージ効果、⑥作品全体、⑦ダンサー・振付家としての伊藤、という観点によって分類。
- (3) 彼の思想と作品との関わりを考察した。

図1 伊藤道郎の思想体系



【結果及び考察】

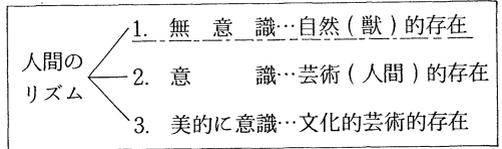
I. 著作にみられる思想

著作にみられる伊藤の思想は図1の如く体系化された。伊藤の思想には、彼の本質として「愛」と「美」という2つのテーマを認めることができる。そして、この2つのテーマを具現化する為に、すべての出発点となり基底となっている考えが「バランスとハーモニー」論、そして「リズムの意識」^{注3}論である。特に「バランスとハーモニー」論は、彼の思想体系に一貫して流れる主要な考えとなっている。さらに、伊藤の思想は「平和」「芸術」「舞踊」の3つに大別された。

1. 人間観

「バランスとハーモニー」は古体エジプト文明から得られた論で、「宇宙こそ最もバランスとハーモニーのとれた存在である(中略)人間自身も、生活自体も、バランスとハーモニーによって、万物の霊長たる完成が望まれるのである」^{註4}と、「バランスとハーモニー」をあらゆるものの理想、完成された状態とするものである。

「リズムの意識」とは、「人間の存在も発展も心身ともにリズムによって支配されている」^{註5}ことから、人間の存在とリズム意識とを次図のように論ずるものである。



2. 平和思想

伊藤はその深い人間愛から、人間社会に於てもバランスとハーモニーを求め平和を論じる。即ち、六千年前東と西とに分かれた古代エジプト文明のバランスとハーモニーを取り戻すには、西、即ちアメリカの物質文明と東、即ち日本の精神文化とが融合しなければならないとし、それにより人間としての理想的姿と平和が得られると論じる。

3. 芸術思想

伊藤は、この世のすべてのものを自然と芸術(Common Art and Fine Art)に大別して把握している。そして、いわゆる芸術(Fine Art)は意識的美的リズムを有するとし、表現主題を重視するが、その根元にあるものは愛であると“Art is the Symbol of Love”^{註6}という。

4. 舞踊思想

(1) 人間生活と舞踊

伊藤は日常生活での人間の動きを舞踊とみたり、それに美的リズムが伴っていたらそれは舞踊芸術であるとし、人間は皆美しくあれ、美しく生活せよ、美しき人生を生きよ、と述べている。

(2) 芸術舞踊論

